

註  
二陵犯逼守とは  
七曜の宿の下  
時七から八寸程  
も七寸見ると胎  
の害を離れ命危  
るを云也此時  
必す災ひに心得  
ふもの心遇  
べし

一六〇  
譬は室宿の處へ月の朔日周り當り是へ亦七曜の日曜か土曜かの二ツ何れか廻り當る  
時に陵逼する者也、又角宿の處へ月の朔日周り當り亦火曜周り當れば朔日より廿八  
日迄は陵逼中と知るべし(以下倣之故に右の方位圖を參照し能々宿曜占察圖に就て  
實地經驗を爲し此難を避べき也(命胎厄難の段))  
今七曜凌犯逼守の事を明さんに、宿曜占察圖中廿八宿の下に七曜  
の配布を録す、然る上毎日廻る處の七曜星が之へ運行して同字の  
七曜ご合ふ時を則ち凌犯逼守と謂ひ其命胎の宿を覆ひ隠す此時に  
必災ひあり、是七曜と廿八宿ご相戰ふ時を云也。  
若し人此七曜の陵逼を知らずして命宿、胎宿を犯し、堂舎家倉を  
造り、或は婚姻旅立等を爲さば恐くは遠からず人命を損ぜん、故  
に陵逼の間、若し三九の中の命宿に當つて万事を作さば即ち命怖

註  
の陵逼中は平素  
三九の吉凶  
轉なるもの  
經中に明かな  
り例合は五  
か衰危は五  
通守せば身  
遂げ所作心  
稱ふと若榮  
成るに若榮  
ば友親を犯  
意稱はす知

一六一  
あり、又業宿に當つて万事を作さば則ち成就せず、若又胎宿に當  
つて万事を作さば則ち横難あり(口傳あり)然るに若し急事ありて  
之を作さんごせば、三九の中に於て衰か危か壞か此三宿の内を用  
ゆべし百事通達すべし、之に反して榮ご成ご友ご親ご安ごの五宿  
に當らば用ゆべからず、一切の所求必ず遂得るなしと經文に説せ  
られたり、(傳に三七曜陵逼の事は三九の秘要)  
因に云世人は此深き意のある事を知らず、徒らに宿の撰日及び吉凶等を以て斯經を  
依用し、或は廿八宿全般の意を解せずして、猥りに三九秘要の美味を擲ち、敢て七  
曜凌逼の毒汁を怖れず、經意を見失ふ者多し豈衰しまざる可けんや、故に經に曰七  
曜凌逼並に三九秘要等の事は、天門通達の人に之を傳ふべしと、如斯の秘文なり  
努々七曜方位を蔑視すべからず(宿曜祓災の段)

『今日月五星の值星が命宿胎宿を犯し逼守せば、其人必ず災厄に會ふ時とす、斯災の將に來らんとする以前に於て此經の徳に依り知得るなれば、功德を修し眞言を持し念誦して其災禍を禳除すべし、

又廿八宿中の畢、背、井、翼、角、亢、箕、牛、女、虛、危等の十一宿は凶宿とす此宿に當る人は禍輕し生れ時此宿に當るは禍重しとす故に毎年「正四七十月」に一度宛其當る宿日を見て潔齋し靈符尊星を祭るべし、是等を轉惡成善と云ふ、能く密宗の僧に請ふて祈禱するを宜とす、此修法は該宗の戒律なれば爰に掲げず之を以て輕視するな勿れ左に七曜咒及び廿八宿咒を掲げれば其惡日に當れば此咒文を唱ひ災厄を禳除するの一助と爲べし』

若人前生の宿因拙き惡宿に生れ合ふ時は愛染明王の法

七曜之呪

唵 莫羅 醜濕 縛哩 耶鉢 羅跋 多而 喻底 摩耶 娑婆 賀

廿八宿呪

唵 諾 乞 灑 但 羅 濕 那 爾 曳 娑 婆 訶

◎ 六害宿秘密占法

(宿曜占察圖にて)

此六害宿の法は七曜と廿八宿と相戦ふの時、即ち七曜凌逼する時に於て初めて六害の起るものとす、而して三九秘要法とは相似たり、彼は廿七宿を悉く用ひ、是は僅かに六害宿のみを用ゆ、又彼は善惡同じからず此は惡のみにて災害の運り來る事を教へたり、故に經に曰六害は常行の法にあらず、若し七曜凌逼せば則ち起て害をなすなり、若又七曜凌逼せずば則ち六害は害なし百惡澄清すと説ける也

に依て七曜凌逼の難を退き去べし之れ日光顯現すれば諸星陰沒する也の道理なれば





室宿の本宮は  
瓶宮也  
去より寅の刻  
迄に生るゝは  
危宿の本宮と  
爲也故に室の  
本宿を定むる  
には朝卯刻に  
り申の刻迄に  
生るるを以て  
本宮とすべき  
也口傳

口傳に云胃、  
鬼宿は急安住  
和善の内なるか  
宿之を附ゆ又  
柳星の露なれ  
共急悪毒を除  
くべし之を除  
則ち急安住、和  
善は急安住、和  
宿は急安住、和  
日配ると雖利  
も推して用ゆ  
猛悪に當らば  
縦金剛甘露  
散て用ゆる勿

抑々廿八宿は年月日に亘つて運行し、主として生日の宿に由て一  
世の禍福吉凶を知る事は、世之を認むる者あれど、未だ此時刻の  
宿は何宿に當るやを解せざる者多し而して單に時刻は七曜のみを  
配合するものとなせり、依て爰に廿八宿時刻星の秘傳をも示さん

（室宿之例）

- 室 斗 壁 奎 婁 胃 卯 畢 觜 參 井 鬼

如斯其日の宿より丑時に當て、午時を越へて順に配すべし、假令は生日三日奎宿  
に當れば、其奎宿を丑の時に當て丑、寅、卯と算ふれば、生日の奎宿より奎、婁、  
胃と三つ目即ち胃宿を時刻の宿となす也以下倣之ふべし（尙ほ十二宮の口傳）  
（をも参照すべし）

◎ 曜宿不相應秘密之傳

曜と宿と重なるに因つて相應不相應の日時を生ずる也、假令は安住宿の行にて日曜に  
尾宿か胃宿の一行ならば之れ曜宿相應の日と云ひ一日吉とす、又和善宿の行、急速宿  
の行、剛柔宿の行の吉所に一行の内に曜宿共に有らば是亦曜宿相應の日と知也、若し  
安住宿の行の尾宿に猛悪宿の行に木曜ならば曜悪き故に吉宿の行へ繰つて遣る事也（此  
曜は其日の曜を寅に當る故に木曜を、意は（寅卯辰巳）の如く己の時に當る故に己の時を曜宿  
相應の時と謂ふなり（是は宿を定めて）  
○又悪宿に吉曜を使ふの法は假令は室宿は不吉也日曜は吉なる故に日の下には室、壁  
等と尋ね壁宿ある故に（丑壁）丑の時の宿より壁迄は二日にして丑寅と考ふれば寅に當  
る故に寅時を曜宿相應の時と爲す也、日曜は一日吉なれども宿惡に依つて寅の時の壁  
宿と日曜と相應して寅の曜を使ふ也（是は曜を定めて宿を）何れの曜なり共宿なりとも惡處  
を吉處へ廻して吉所にて相應せしむる事、又悪宿惡曜を使ふ事猛悪宿の下にて木曜に  
室宿ならば其行にて室、壁と曜、次の金の下にて奎を尋ぬるに奎ある故卯の時を使つ

知也(是は時の曜に宿を)  
 又踊る意の法と云は假令は曜は寅より初め、宿は丑より初む故に丑時の宿を寅時の曜と宿に踊り付んが爲に一踊して丑時の宿は寅時へ踊付くあり之れ寅時の曜と宿は一物に成り次の行へ越すを以て也、次の行にて奎を尋ね奎宿ある時に卯の時を使ふと云意は丑時の室宿は寅時の壁宿に踊り次で一物にある故に寅時の壁宿より算ふ事壁の指次なる奎宿卯の時に當る故に卯時を使ふ也、次の輕躁宿の行へ越せば猛惡宿の行は曜宿共に不吉なるを以て次の行へ越して使ふと知べし(是は曜宿共に廻し)  
 又法には吉曜吉宿なる共別行なれば不相應なり是は曜を定め宿を廻すとも宿を定め曜を廻す共何れも苦しからず若し惡曜に惡宿別行なれば時を取て使ふべき様なき故に大惡日として使はざる也既に一行なれば踊つて騰へ越せば共別行なれば踊つて越す義もなき故に惡日なりと心得べし

○今曜宿相應して三日を爲し及七科宿の吉凶を示さん

(圖例)

○安住宿	日	尾、胃、軫	畢、翼、斗、壁	上吉
○和善宿	月	女、鬼、畢	觜、角、房、奎	上吉
○毒害宿	火	壁、翼、尾	參、柳、心、尾	不吉
○急速宿	水	昴、參、柳	鬼、軫、箕、胃	上吉
○猛惡宿	木	井、氏、鬼	星、張、箕、室	不吉
○輕躁宿	金	張、奎、房	井、亢、女、虛、危	半吉
○剛柔宿	土	亢、柳、星	昴、氏	大吉

(極傳中曜宿七種三重の相傳及三重返の口傳並七難災厄の段に説ん)

(七科分宿中)

(日曜と軫宿と合すれば甘露也以下倣ふ)

傳上善惡の宿  
 日月等の七曜  
 性を見れば善  
 惡の差別なり  
 功能の互角なり  
 和等の上住和  
 惡相に依り善  
 其義は下の也  
 吉不吉大の上  
 を以て堅の行  
 の善惡をは見  
 る可きなり又  
 露の善惡を甘  
 露利、金剛  
 如是堅の指  
 令に依りて上  
 大中吉上吉  
 大も中吉上吉  
 成る也能なり  
 地に經驗の功  
 を積むべし

注 一に善も悪となり、二に悪も善となり、三に善又善、悪更に悪とある段是羅宿の組合に因る也

○釋して曰 安住、和善、急速の此三宿は縱令羅刹日と雖も之を用ゆとは羅刹日は惡日されども安住、和善、急速の三宿は至て吉日なる故に惡さを押へて吉日となし使ふ也。亦金剛峯日、甘露日は吉なれども毒害、猛惡は大凶なれば尤も之を凶とする也云々

○意は右三重の内 胃、鬼、翼、奎、は羅刹なれども元來安住、和善、急速三宿の内なる故之を用ゆ也、又 尾、及、張、は金剛なれども元來の宿は猛惡、毒害なれば用ゐざる也。又 星、柳、の二星も甘露なれども同く毒害、猛惡宿なれば之を除く也

○右の如く金剛、甘露日なると猛惡、毒害至て惡日なる故縱令吉日をも押して惡日となる故に大凶也、又安住、和善、急速の三宿は縱令羅刹日に配ると雖推して用ゆべし兎角此七種三重の傳は分別し難き者多し、能々師に就き心得べき者とす

◎ 太白星八方位吉凶法

此太白所在の八方及び天上地下の吉凶を觀るに、太白星が天の宿度に拘はらず一月に三度運行して八方上下に在り之を太白所在と云、故に其所在へ出行し一切の動用に就て抵抗するを得ず、若之を犯せば災厄ある事は毫も疑ひある事なし依て之を避るに如かず又天上凶とは舊十日、二十日、三十日には階に登り或は屋根普請、上棟等を忌むなり又入地凶とは舊九日、十九日には井を掘り池渠を穿つに凶なり是等は太白星の主る位なり犯す可らず、左に太白星の一ヶ月中運行する各方位を示さん

○ 二日	○ 十一日	○ 廿一日	○ 凶
○ 三日	○ 十二日	○ 廿二日	○ 凶
○ 四日	○ 十三日	○ 廿三日	○ 凶
	○ 十四日	○ 廿四日	○ 凶

新曆日  
 井角柳 鬼角柳 翼軒柳 昂畢替 昂畢替 星張替 尾箕昂 房心尾 斗女奎 室亢奎 角亢奎 虛危井 奎虛井

北行 西行 南行 東行

○五日	十五日	廿五日	一七四
○六日	十六日	廿六日	(在西方)
○七日	十七日	廿七日	凶
○八日	十八日	廿八日	(在北方)
○九日	十九日	廿九日	凶
	二十日	三十日	(在中央入地)

如斯太白は七曜星の外一ヶ月に轉ずるが故に(毎月然り)天に日月の在す間は來世未  
 世未來の年月日に、常に恒常星と共に天に隨ひ轉じて盡る事なく、又太白は闘戰大將  
 軍なれば皆人常に百事をも順行にすべし、決して之に逆ひ向ふ事勿れ若し出入、移徙  
 遠行及び嫁娶し拜官し闘戰し、又世間の雜事造作等其用ひ方、行ひ方は皆日月の如く  
 順行に用ゆれば大勝吉利あるなり、若逆ひ行ひて法に順はざる者は皆大凶災難に遇べ  
 し、七曜方位に次で慎むべき方位なりと云ふ(七曜方位の以外に)

因に云太白所在方を犯せば大に厄ある所散なる事は凡人の知れざる所去れば佛の五逆生死の説も世  
 の八將神樂の説も豈疑ふ事を得じや

◎觀命之長短並生死期秘傳

此法は人間の生れに依て、壽命の長短を見るの段也、之れ前世の罪業を、今現世に現  
 はして、短命すと云ふ、小兒早世善緣經に夫れ短命にして世を去に二因あり、一は前  
 生に殺生したるの報い也、又一は親を濟度するの方便也と説けり、去ば親たる者兒の  
 姪娘中は特に佛を信じて其子の壽命を祈るべきを肝要とす、故に重きは短命、輕きは  
 亂氣、薄きは異風、又は病難重り患ふべきものとす若し亂氣を離れおば、必ず其子  
 は短命なりと斷定すべし即ち

- (參、房、牛、心、星、胃、室歳の者、)魚宮、鰲宮生の辰時は短命也  
 (但鰲宮生の巳時も同じ) ○(觜、斗、房、婁、柳、軫、危歳の者、)男  
 女宮、瓶宮釋宮生の者、寅中刻は短命也(但釋宮生の巳時も同じ) ○(翼、虛、奎  
 鬼、畢、氏、箕歳の者、)摩羯宮、女宮、牛宮生の、巳上刻は短命也(但牛宮生

短命



生死の定業並男女の出産は月の出潮に入沙は知死期には人生れ引鹽には人死す引鹽に知し今月の昇降を考ふるに晝夜一時に二尺として一尺に四寸宛なり朔日に地の上の四寸には二寸の身八寸に此の出潮速ある也出潮速ある也出潮速ある也

も同じ又癸宮生(〇)亢、壁、昴、張、女、井、尾歳(の者)(弓宮、獅子宮の午時は日命也) 羊宮生の、未時は短命也

又百日命にて百日の間の短命人なり若此命の者延長すとも死すこと同じ事あるべし、去ば此親たる者は心を眞實にして佛神を敬ひ三寶を修するの意あらば十が一災を免るゝ事あるも一生人に人と思はれぬ生性ぞ知べき也

魚宮生 辰 時 牛宮生 子ノ中刻 男女宮生 丑 時 蟹宮生 酉 中時  
 女宮生 亥 時 秤宮生 亥 時 蝎宮生 亥 中刻 弓宮生 午 時  
 摩宮生 午 時 瓶宮生 寅 時  
 又一例せば昴宿時に胎みし者は星宿時に死し又星時胎は房宿時に

成る八日より一日に四寸宛大潮となるべし去は一年中月の短小と夜長月此順時は毎事此順時は陰事此順時は事理の自然に事也今毎月四回左に示さむ七朝晩共六つ時

死し又房時胎は虚宿時に死し又虚時胎は昴宿時に死する也則ち角宿時生なれば觜宿時に妊み又角宿妊なれば女宿時に生るべし之を人命生死の定業と爲所也〇女子出産に就て云ば女子は月の升降の指時に生る也其中にも升水の指時に生は吉也形体も壽命も全し降水の指鹽か引鹽に生るは不吉又短命とす譬へ生るも病身也而升水の引鹽に生るは命あり、降水の引鹽に生るは命無とす〇又男子出産の生は日の升降にて知なり多くは明け卯刻に生るか夜の子刻に生る之れ吉とす卯刻を過生るは不吉短命なり譬へ生るも病身と断定すべし(口傳あり)今左に生死期の圖例を示さん(命業胎初九中五形欠くる者は短命也極傳に説かん)



で日曜日に當る事を知れり、能々舊曆月日と新曆の月日とを能々注意し疎漏なく繰出すべし

(注) 但し曆中凡て正月、二月とある横の欄中宿を二ツ重ねたるは上は月宿にて下は日の宿なり譬へば明治卅九年正月の横に婁と危とあり此婁は月宿危は朔日の宿なり繰入誤ること勿れ

◎ 其 例

明治元年正月朔日生	寅宿	木曜	魚宮	牛宿	胃宿	土曜
同 二年二月二日生	斗宿	木曜	羊宮	井宿	虚宿	日曜
同 三年三月三日生	牛宿	土曜	牛宮	箕宿	房宿	日曜
同 四年四月四日生	女宿	土曜	男女宮	箕宿	張宿	月曜
同 五年五月五日生	虚宿	金曜	蟹宮	心宿	畢宿	月曜

参照  
明治三十三年  
二月二十九日  
生  
虚宿年土曜年  
魚宮月 角月  
斗宿日木曜日

新 曆

明治六年六月六日生	危宿	金曜	蟹宮	胃宿	婁宿	金曜
同 七年七月七日生	室宿	火曜	獅子宿	亢宿	轸宿	火曜
同 八年八月八日生	壁宿	火曜	女宮	奎宿	星宿	日曜
同 九年九月九日生	奎宿	水曜	秤宮	軫宿	氏宿	土曜
同 十年十月十日生	婁宿	水曜	蝎宮	室宿	箕宿	水曜
同 十一年十一月十一日生	胃宿	土曜	弓宮	張宿	危宿	月曜
同 十二年十二月十二日生	昂宿	土曜	摩宮	虚宿	婁宿	金曜
同 十三年一月十三日生	畢宿	金曜	瓶宮	危宿	轸宿	火曜
同 十四年二月十四日生	觜宿	金曜	魚宮	星宿	張宿	月曜
同 十五年三月十五日生	參宿	木曜	羊宮	女宿	軫宿	水曜
同 十六年四月十六日生	井宿	木曜	牛宮	鬼宿	心宿	月曜

水	水	火	火	年號干支
丁未壁	丙午室	乙巳危	甲辰虛	弘化元
大月小水大木小土小日大月大水小金大土大胃大柳大月小水大木	同四 牛危女壁虛奎危胃室昂壁畢奎參斐鬼胃柳昂張畢軫轸角	同三 星犄張井翼鬼軫星	弘化二 室亢壁氏奎心箕尾斗女畢虛犄室參壁井斐鬼胃柳昂張畢軫轸角	弘化元 角虛亢室氏奎房箕心昂尾畢箕參斗井牛柳女星虛翼危軫
同	同	同	同	年號干支
同	同	同	同	正月
同	同	同	同	二月
同	同	同	同	三月
同	同	同	同	四月
同	同	同	同	五月
同	同	同	同	六月
同	同	同	同	七月
同	同	同	同	八月
同	同	同	同	九月
同	同	同	同	十月
同	同	同	同	十一月
同	同	同	同	十二月

○宿曜千歲曆

(年月日早線鑑)

同十七年五月十七日生	同十八年六月十八日生	同十九年七月十九日生	同二十年八月廿日生	同廿一年九月廿一日生	同廿二年十月廿二日生	同廿三年十一月廿三日生	同廿四年十二月廿四日生	同廿五年一月廿五日生	同廿六年二月廿六日生	同廿七年三月廿七日生	同廿八年四月廿八日生
鬼宿	柳宿	星宿	張宿	翼宿	軫宿	角宿	亢宿	氏宿	房宿	心宿	尾宿
水曜	水曜	土曜	土曜	火曜	火曜	木曜	木曜	水曜	水曜	金曜	金曜
宮男女	宮蟹	宮獅子	宮女	宮秤	宮蠍	宮弓	宮摩	宮瓶	宮魚	宮羊	宮牛
斗宿	參宿	尾宿	畢宿	房宿	胃宿	亢宿	奎宿	箕宿	角宿	壁宿	翼宿
女宿	奎宿	畢宿	柳宿	亢宿	尾宿	虛宿	奎宿	畢宿	畢宿	翼宿	房宿
土曜	木曜	月曜	土曜	金曜	火曜	日曜	日曜	木曜	月曜	日曜	火曜

火	火	土	土	水	水	年號干支						
巳未張	同六	戊午星	同五	丁巳柳	同四	丙辰鬼	同三	乙卯井	安政二	甲寅參	安政元	年號干支
大室	大角	小胃	大心	小參	小牛	大室	大角	小胃	大心	小參	小牛	正月
木奎	大日	小日	大水	小土	小月	木奎	大日	小日	大水	小土	小月	二月
小壁	大月	大火	小金	小箕	小火	小壁	大月	大火	小金	小箕	小火	三月
土胃	小水	小木	大斗	小斗	小木	土胃	小水	小木	大斗	小斗	小木	四月
大奎	小水	小角	大心	小角	小日	大奎	小水	小角	大心	小角	小日	五月
日昴	小木	小斗	大參	小參	小危	日昴	小木	小斗	大參	小參	小危	六月
小婁	大角	小尾	大井	小井	小虛	小婁	大角	小尾	大井	小井	小虛	七月
火胃	小室	小房	大鬼	小鬼	小危	火胃	小室	小房	大鬼	小鬼	小危	八月
小參	大心	小斗	大柳	小柳	小參	小參	大心	小斗	大柳	小柳	小參	九月
大昴	小尾	大牛	大室	大室	大室	大昴	小尾	大牛	大室	大室	大室	十月
小畢	大斗	小女	大張	大張	大張	小畢	大斗	小女	大張	大張	大張	十一月
水井	小土	大火	大翼	大翼	大翼	水井	小土	大火	大翼	大翼	大翼	十二月
大鬼	大角	大日	大室	大室	大室	大鬼	大角	大日	大室	大室	大室	十二月
木柳	大火	大室	大室	大室	大室	木柳	大火	大室	大室	大室	大室	十二月
土氏	大火	大室	大室	大室	大室	土氏	大火	大室	大室	大室	大室	十二月

木	木	金	金	土	土	年號干支						
癸丑	同六	壬子畢	同五	辛亥昴	同四	庚戌胃	同三	巳酉婁	嘉永二	戊申奎	嘉永元	年號干支
大星	大室	大參	大角	大胃	大心	大星	大室	大參	大角	大胃	大心	正月
火壁	大水	大壁	大土	大火	大木	火壁	大水	大壁	大土	大火	大木	二月
小張	小星	小日	大月	大張	大翼	小張	小星	小日	大月	大張	大翼	三月
木翼	大月	大張	大翼	大張	大翼	木翼	大月	大張	大翼	大張	大翼	四月
大胃	大角	小參	小斗	小參	小斗	大胃	大角	小參	小斗	小參	小斗	五月
日昴	小室	小虛	小危	小室	小虛	日昴	小室	小虛	小危	小室	小虛	六月
小婁	大角	小尾	大井	小井	小虛	小婁	大角	小尾	大井	小井	小虛	七月
火胃	小室	小房	大鬼	小鬼	小危	火胃	小室	小房	大鬼	小鬼	小危	八月
小參	大心	小斗	大柳	小柳	小參	小參	大心	小斗	大柳	小柳	小參	九月
大昴	小尾	大牛	大室	大室	大室	大昴	小尾	大牛	大室	大室	大室	十月
小畢	大斗	小女	大張	大張	大張	小畢	大斗	小女	大張	大張	大張	十一月
水井	小土	大火	大翼	大翼	大翼	水井	小土	大火	大翼	大翼	大翼	十二月
大鬼	大角	大日	大室	大室	大室	大鬼	大角	大日	大室	大室	大室	十二月
木柳	大火	大室	大室	大室	大室	木柳	大火	大室	大室	大室	大室	十二月
土氏	大火	大室	大室	大室	大室	土氏	大火	大室	大室	大室	大室	十二月





二月二十九日  
閏年なり

二月二十九日  
閏年なり

火	土	土	水	水	木	年號干支
戊子 同二十一 翼	丁亥 同二十 張	丙戌 同十九 星	乙酉 同十八 柳	甲申 同十七 鬼	癸未 同十六 井	新曆 一月
大柳 大日 小星	大土 大土 小星	大金 大角 小月	大木 大角 小日	大火 大火 小金	大月 大木 小大	二月
小水 大張 大井	小火 大火 小金	大月 大月 小木	大日 大日 小水	大土 大火 小斗	大木 大火 小星	三月
小日 大星 大火	小星 大火 小斗	大木 大房 小土	大角 大角 小心	大斗 大火 小日	大星 大火 小金	四月
大角 小斗 大星	大斗 大火 小日	大房 大房 小土	大心 大心 小斗	大星 大火 小金	大張 大火 小星	五月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大土 大土 小角	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	六月
大星 大火 小金	大斗 大火 小日	大角 大角 小心	大心 大心 小斗	大星 大火 小金	大張 大火 小星	七月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大房 大房 小土	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	八月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大土 大土 小角	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	九月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大房 大房 小土	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	十月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大土 大土 小角	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	十一月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大房 大房 小土	大角 大角 小心	大斗 大火 小金	大星 大火 小金	十二月

二月二十九日  
閏年なり

金	水	水	木	木	火	年號干支
甲午 同廿七 心	癸巳 同廿六 房	壬辰 同廿五 辰	辛卯 同廿四 亢	庚寅 同廿三 角	己丑 同廿二 軫	新曆 一月
大危 大張 小室	大日 大角 小水	大星 大角 小月	大角 大角 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	二月
小木 大壁 大角	小奎 小土 大房	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	三月
大木 小奎 小日	大房 大房 小土	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	四月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	五月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	六月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	七月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	八月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	九月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	十月
大火 小斗 大星	大火 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	十一月
小斗 大星 大火	小日 大火 小斗	大星 大角 小月	大斗 大火 小日	大星 大角 小月	大斗 大火 小金	十二月



閏年あり  
二月二十九日

土	木	木	火	火	金	年號干支
庚子 虛	同卅三 辰女	己亥 女	戊戌 牛	同卅一 斗	丁酉 斗	同廿九 箕
大月小	大斗小	大辰小	大土小	大房小	大金小	大柳小
木大	木大	木大	木大	木大	木大	木大
木小	木小	木小	木小	木小	木小	木小
日大	日大	日大	日大	日大	日大	日大
火大	火大	火大	火大	火大	火大	火大
火小	火小	火小	火小	火小	火小	火小
金大	金大	金大	金大	金大	金大	金大
金小	金小	金小	金小	金小	金小	金小
日大	日大	日大	日大	日大	日大	日大
日小	日小	日小	日小	日小	日小	日小
月大	月大	月大	月大	月大	月大	月大
月小	月小	月小	月小	月小	月小	月小
年大	年大	年大	年大	年大	年大	年大
年小	年小	年小	年小	年小	年小	年小

一九二

明治三十三年  
閏年あり  
二月二十九日  
は普通五年目  
毎の二月廿九日  
日閏年の所當  
一年は百年の  
が故に當る  
八日二十年也

閏年あり  
二月二十九日

水	火	火	金	金	土	年號干支
丙午 胃	同卅九 戌	乙巳 箕	同卅八 辰	甲辰 奎	同卅七 未	癸卯 壁
大月小	大斗小	大辰小	大房小	大金小	大牛小	大斗小
木大	木大	木大	木大	木大	木大	木大
木小	木小	木小	木小	木小	木小	木小
日大	日大	日大	日大	日大	日大	日大
日小	日小	日小	日小	日小	日小	日小
月大	月大	月大	月大	月大	月大	月大
月小	月小	月小	月小	月小	月小	月小
年大	年大	年大	年大	年大	年大	年大
年小	年小	年小	年小	年小	年小	年小

一九三



### 大增補出版に就きて

一九六

本書は今回本會の希望を公にし著者多年の研鑽と實驗とに由て奥傳に大註釋大增補を爲し以て一般社會同好の士に貢獻せんと欲す本來廿八宿の書たる宿曜占察經は察宗の教法廣義的深奥なる佛教上の釋文なれば初學庸蒙者には難解に苦しまる有むを察し這般世の秘密に屬する極傳口訣等悉く本書に掲載しあれば此を以て我邦は愛か世界滿天下へ弘く播布し吾佛教占察の一派を擴張し廿世紀七曜廿八宿をして之か活占術を洽く普及せしめんか目的の爲め茲に本書を修訂刊行したる也

東都小石川西丸街片隅に於て

### 佛教眞占術會本部

#### 三十六禽の解

三十六禽とは地の鳥獸を十二支に配當したる名にて天の廿八宿に七曜の星を象り其内に北辰を入て八と成し是卅六の數に合也依て天より地を生じ地より天を生む故に禽獸草木共に四季に相交つて花咲けば亦交りて成す爰を以て地より直に天より直ちに地と知べし故に卅六禽を廿八宿の星に取用ゆる也夫れ人間の生れ禽獸と同じく空に生じて空に宿る此理はりを以て人間の種を宿す事知ものなし是天の廿八宿地の卅六禽合せて七十二候となる人間萬物共に之より始ると知べき也

扱此三十六星には各光象威形あり這を地の禽獸蟲類に比して其星の意味を觀考し之をして禽獸の善惡を鑑み其人々の生年月日に引當て其星の當る所人心の奥意を知分けて其人の性質生尅等の臆念迄細かに察し得べきを此卅六禽法とす傳に曰く禽に天地水の三禽ありて皆悉く廿八宿に屬す天禽とは畢女危胃參の五つを云地禽山禽とは戌房心尾箕斗牛虛奎婁巽鬼稽井柳星張翼軫の十九を云水禽



宿曜入垣の圖解

宿曜相生して正しき位官に入を垣に入と云少しの分度につて五行の方位も異なる事なり譬は子宮の垣に入宿は危虚女日月土此三曜三宿子の宮中に有を常の垣と云ふ以下倣之又丑の宮中太常局とて堅固なる事物毎に違ふ事無き也寅の宿に生し人此五宿に周り當り亦年月日時を取出す時に此五星に逢時必ず朝堂上に在る運にて天子に見ゆか或は大位大臣大公に見ゆべき時を得る也又天堂の局とは朝堂上に至り或は位高き徳位顯れて正しからんと云也又角道とは大なる家に縁あると見或は士官に應ずると知べし巳の方位は角みなり故に云又牛宮中顯榮の局とは榮花を見はす事を云又未局に文昌局あり入垣の人は學文並文章を好みて大高位に昇るべきと知べし但し宿曜垣に入らざる人は譬ひ寶祿位官共に有も其身分正しき時を得て上品の貴人にては非すと心得べき也左に入垣の圖を示さん(伊藤公遵難の占例を見よ)

軫 角道垣 翼 火入垣 巳 水入垣	張 月入垣 星 日入垣 柳 土入垣 午 水顯榮局	鬼 木入垣	井 火文昌局 未 金入垣	參 紫入垣	嵩 火入垣 申 土入垣
亢 金入垣	宿曜 位官入垣之圖		胃 月入垣 羅入垣	昂 日入垣	畢 土入垣 西 日入垣
心 土入垣	房 火天堂局 氏 月入垣 卯 日入垣	斗 金入垣 土太常局	女 月入垣	虛 土入垣	危 日入垣 子 土入垣
箕 紫入垣	尾 火入垣 寅 木入垣	牛 木入垣	室 火文昌局	壁 水入垣	亥 木入垣

宿曜昇殿の圖解

昇殿とは身上の富祿に至り或は出世の事萬吉祥なる事を合せ見る圖なり是人々の生付たる星を取出して何れの性の人も此宮中へ引入て見る法なり  
 假令は子年(燕鼠蝠)の人危宿に當り曜は月亦大陰の星此當る年月日時は昇殿なり  
 又子年虛宿當り日曜當の太陽の當り相會ときは是亦昇殿とす又丑年の人牛宿金曜金星の當りと斗宿木曜木星の當りの運は昇殿にて万望み事富祿に吉なりと知べし以下假令は箕星水曜に當る宮は定て何れの宮なりと昇殿中を見定め毎年々亦七曜の周來るを見て八十二宮の繪圖の下に有は定りの宿曜なり變化して順還にす宿曜の事は入垣の圖下にて此抄を以て考ふべき也左に昇殿圖を示さん



### 遺補 占 斷 例

#### 丁未歲、豐凶の占例 (其一例)

四十年は幹支か丁未で廿八宿では昂宿七曜は水曜歳である又舊正月元日は水曜に發て且つ新五月五日は日曜で舊五月五日は土曜で有から本年は四時順潤萬事豐熟ならん然し正月中に巳午の日三つ重りあれば此夏も極暑疑ひなし去と燥氣大に行はれて清冷時に至るの年なれば先早魃の歳では無ろう扱國々に依り一概に云へぬか今年の梅雨は長降しないから苗代や麥等には障らぬも早稻時には水が少ないが此時期には雷雨降雹の恐れも見ゆる又農家の大危日たる二十日は無事なるも二十廿日は風吹き田畑を害すと又舊七月の頃風吹き大に作物を損する年である夫に本年は水曜に當る故に夏と冬の初に於て多少水危あるは天災であるから免れぬ

殊に本年は白濕の氣四方に起るとして正月より六月迄は太陽の濕あり又七月より

十一月迄は太陰の寒水あるか故に秋に至りては霧露の冷る事嚴しく故に生氣時に遅れて應を失ひ草木は遅く七月の季に入て後も榮る萬物永く秀で充實するの年である然し結霜の時期も定まらぬ故桑の如き茶の如きは豫防の策を採るは必要である又冬に至つて氷雹多く降り陽氣治まらぬも東北地寒中尙温なる事多いのはこの歳であるか夫れが爲め正月より六月迄は重なる物甘味ある物濕りたる物は盛んで而して黒色なる物鹽早き物は少ない又七月より十二月迄は黒色ある物鹽早き物は盛んで而して赤色と苦味ある物は少ない又正月より六月迄は裸虫は靜かに羽有虫は少ない七月より十二月迄は鱗ある虫は育つも一體裸虫は育ち難き年で有るから稻蟲の被害は殆んど無いで有ろう

凡そ此の歳は五穀百果の類は概して良好なるも別けて粳糯麥大小豆粟桃等は豐作にて且つ辛みある物肉厚き物穀の堅き物白色なる物黄色なる物は皆宜しくも獨り青色な物酸味な物核の堅き物又胡麻梅李の類は宜しくない然るに米作は一般七月九月に水ありて稻の草生宜しく殊に新五月五日日曜に當る年は時を忒へず豐熟すとあり且つ五月中旬に夏至ある年も大豊米賤しと有るを見れば先づ上

作の方ならん去と陸稻は夏季強暑の爲に作況不良の虞れあれば粟黍の類を種う  
るか宜し然し茲に注意すべきは若し土曜と日曜日とに地動起る處あれば其地の  
豊作は變して凶作となる故大に地震を怖れぬばならない又蠶業上に就て本年の  
春蠶は成績不良なるも夏秋蠶は良好である之れ一般の氣候が變化急劇の年とも  
見へぬか先づ絹紡績や紙楮等の價が高い年である何は兎もあれ一年中の豊凶  
の事を全国各地に通して判定するは甚だ困事にして豫言し難きも大體を卜する  
上には是れなら本年は凶き年とは謂へぬ平年の作で有と云事が知られる

己酉歲豊凶の占例 (其二例)

四十二年は己酉で替宿の土曜歲である扱舊五月五日は替宿の火曜日又新五月は  
幹宿て其五日も亦替宿の水曜日である  
依て之を占斷するに昨四十一年の畢宿土曜歲(翼宿火曜の替宿水曜日)の如く本  
年も又々米作大豐饒の稔ならん何則れば土曜の年は百物平年土功の事業多しと  
あり又替宿には農桑園圃を開くに吉とあり又替宿に農祭安久に事業を成す吉と

あるか故に一般播種耕耘共に宜しきを得ず風雨寒暑固より順適すべき年なるを  
以て豐熟は疑ひなからむ夫に本年の三月十日は木曜八月五日も木曜十月廿日も  
亦木曜に當る月日である木曜は四時調順にして万物熟すべしと有に依つて明ら  
かてあり又本年の豊凶は前年の十一月に據りて卜する事か出来得る然るに霜月  
の初旬に雨あり又中旬と下旬にも雨多きか故に本年の早稻中稻晚稻とも豊作十  
分たるを知らるゝのと且は五月四日六日に雨降らば亦豊年の稔なりと云ふに徴  
して之を見るに果して當年の近年稀なる大豊作を得るに至つた去と新六月と九  
月と十月とに地動あるの外一般に火曜日に當りて地震の有つた國々は到底平作  
以下の不況を免れぬのである是を以て明年を推知すべし

因に云五月巨蠶宮は太陽の南へ退くの時て一年の豐饒を標とし夏至の季節を  
知るを以て總て五月を一年の占に重きを置くと又十一月摩羯宮は乾燥の時節  
より濕潤の季節へ推移りて冬至と知を以て十一月を年の始とし一年を卜する  
の標となすべし學者心得べきである



伊藤公遭難之占例

去る十一月八日發行の東京藥種  
貿易新聞紙上へ掲載し置きたり

去月廿六日滿州「哈爾濱」に於て刺客の爲め薨去せられし國家の柱石伊藤公爵の運命を天文宿曜星幹支運氣の術等に當て後進の士の爲め將來の戒と爲し既往の事から引證して社會に紹介して見ようと思に就ては聊か公の半生前に遡り其階級を述へ彼の俊輔と稱せし時代より從一位公爵に迄昇進せられし氣運の趨勢を占して見よう

公は天保十二辛丑宿の土曜年の九月戊戌秤宮の氐宿の二

日癸丑房宿の土曜の庚申の刻木曜の御生で

其一代の空亡悪日は寅卯の年月日破日は子の日破年は丑の歳て又分野の九宮では六宮又廿八宿の命業胎ては房壁鬼て公の口鼻の邊りに黒子か有のて此日の生れたと謂ふ事か確かに解る

公の遭難は四十二年十月廿六日午前九時過ぎてあつた

扱公の一生の大運は逆四年運て有つて、戊戌より起り十二歳ては冠祿旺相運か多  
い先つ廿一歳より廿三歳迄は小開運時代て卅四歳より四十二歳迄は中開運の時  
代である夫から四十三歳より四十九歳迄は第一期開運旺相運て其後五年間は一  
寸退運の傾きか見へた五十五歳より六十歳迄は第二期旺相運又其後四年間程は  
退潮運となり更に六十五歳より六十八歳迄が第三期の旺相運て有つた寔に天の  
運勢と云ふものは人々の争はれぬもので公か明治十八年に清國に特派大使と成  
れた年か今日の遠い因縁となつて此歳初て總理大臣の運も乙酉(木)で廿一年憲法  
發布と云ひ外務大臣樞密院議長などの年は戊子(土)で二度目の總理大臣が癸年生  
日幹で又臺灣總裁や侯爵大勳位を得られたのが是も廿八年の乙未(木)で三度目の  
總理大臣も卅一年の戊戌(土)で又韓國統監と成られたのも卅八年に乙巳(木)の歳で  
あつた其處で不思議な事には卅七年に韓國へ特派大使として行れし年が甚だ凶  
なる歳で初て公の傷官と云ふ今日身を殺すの奇禍が胚胎せし惡運が現はれて居  
るのと又本年の十月舊九月は甲戌(木)の傷官月乙巳(木)に(卅七年)附合し居には一驚  
を喫せねばならぬ大運では六十五歳より六十八歳迄は敗財運で夫に本年は大運

の寅卯木空亡の歳で小運とても甲戌木の廻り年で衰運又は敗財運と出で居る斯くも公の經歷が土と木とに深い縁あるは是も亦何かの因縁で有らう  
 今熟々學問上より公の命鑑を推て見るに日幹の癸水生日は己土生年の歳君に迫害され酉本年の金は卯大運の木を犯して相尅し又大運の寅卯木と己酉土の歳君と相冲して災厄を招き廿六日十月の己土と小運の甲戌木又十月の甲戌木と多く尅する年月日には必ず死すべしと然るに公の年運生年に辛金ありて土生金と相生し命運の生日癸水は水生木と相生せば本年本月を以て定めて死期の運命とは見る可らざるも是が例證の一である  
 次に彼一代空亡凶運の悪殺と九宮七曜等の方位を調らへて見るに甲辰の句中寅卯空亡東方は廿八宿辰房心尾箕の定位にて其的殺は西方の廿八宿婁胃昂畢觜の定位にて彼の哈爾賓は乾の方奎婁の方に當れり又九宮分野の所司は六宮(公の)にして成亥に位し奎壁の丹天より牛女宿に連り又辰巳の方翼軫廿八宿の地戸より西の辛方胃婁宿の天門に向つて大凶殺來るの時節にて當年は己酉の陰氣甚だ勝が故に天門の筋に突ひ起るは大法である宛も我日本より哈爾賓は正に成亥の方

に當りて此遭難に罹れり是例證の二である  
 夫に本年は南方星柳廿八宿の蒼天より虛危廿八宿宿の方は年月の大凶方で有つて六宮の本命は其北の暗劍に坐し十月の九宮は南を暗劍と亥十月の六宮(公の本命)は坤方の己の背宿に在て死線十月に入る然るに公は南奉天より長春を経て哈爾賓に向ひ行かれしは之れ北の暗劍殺と我本命とを犯す事と成つたので是が例證の三である  
 夫から又凶殺の甚しいのは本年十月十四日より十一月七日迄は(九月一日より廿五日)天地間萬物の一大災厄ある七曜陵逼とて廿八宿と七曜と犯し戦ふ大難中に遭遇せられし事にて恰も公の生日日即舊九月辰宿宿運の房宿(命宿)日東方より陵逼難に罹り北方暗劍殺たる六宮の本命を無事に越へ且つ六害難中の克宿聚宿に及び將に乾位の定位(公の本宮)奎婁の(廿六日の宿)天門へ入るや俄然地戸(巽方)より來る惡氣と東方辰宿より西方昂胃宿へ來る陰氣と南方蒼天の凶殺が北方虛危宿を犯して乾に在る六宮を挟み打し竟に此凶行を敢てし不測の禍難に罹られたので是が例證の四である嗟誠に不幸な事だ殘念の事であつた

○然るに本年は不思議な事には公の此災難に遭遇せらるゝ事を豫言してある如く(宿曜經)と云(占察經)七曜の段に既に記してある其經に曰く「五月の日」(新曆共)年月に土曜を得ば中略威重の人に事あり又國難ありとす若し缺蝕あるが地動あらば世一般國民不安にして威重き人厄難に罹るが又は死すべし又「木曜を得若し此日に缺蝕又は地震起らば王公貴人等の身分ある者交も災厄に罹る」と云ふ去に本年は猪宿の土曜歲又當年の日蝕は己酉日六月十八日(婁宿)の土曜日又十一月の月蝕も土曜で辛卯の日十一月廿七日又近江の大地震は(八月)土曜日の六宮本命の日であつて年中地動の多きは此土曜と木曜とに限る如である實に本年の日蝕と云ひ大地震と云皆公の奇禍を豫言し前兆を示したのではなからうか寔に天と伊藤公とは同一体なれば天は伊藤公にして伊藤公はまだ天なる哉やである○以上の學理を綜合し來つて是を人事の運勢に考へたならば何人も天災禍難の怖る可き事を知ると同時に之が己前に轉禍成善を爲すの大急務をも感せしならん實に四十二年十月廿六日の如きは公の異郷の地に於て天災の奇禍は免れざるも未だ命數の盡たる死期に非らず公の薨去は一に方災の難にして決して宿世の定

命期に非ざる事は明かである何ぞや是恐るべき七曜凌逼の大難を知られず又は年月の惡凶殺を避くるの前知なきが致す咎にして如何に人權與奪の威徳ある而も神明なる伊藤公と雖も天の方災惡祟には夫れ奈何とも敵し難きもので有る乎今公の命數を見るに辛酉の歲(今年より)甲午の月(五月)午の大運己未の中運丁亥の小運寅卯の空亡六宮本命(八十二歲)此年月を以て公の定つたる命期の定命となすに今や國家百年の長計を捨て徒らに天の命に翻弄せらるゝは千歲の下洵に一大の恨事と謂はねばならむ嗚呼惜い事である

因に云

伊藤公の御生れ丑歳の斗宿の土曜年は星辰木入垣の太常局と云命運で此三つが重なる者は必ず位官正しき朝堂上に在る運にて時の天子に見へ高官に昇るの生れ則ち命職顯耀するを得べき大吉運である故に公の小開運期より三期旺相運迄は其宮々に入て相生し朝堂に上らると又土曜の年月には太常垣局の好運に當りて高位に安せらるゝは前述の土曜と木曜との出世上に於て知るべきで

ある此が伊藤公の伊藤公たる世界の偉人としての運勢と云事が學者に讀めて貰はねばならぬ

佛教眞占術會本部

岡崎立命誌

### 曜宿合重性質の吉凶

日 虛

性質自分の好むで修むる事は總て人に秀て又勝敗を争ふの業には勝を制する質あり兎角精神の浮動は事業を妨ぐることを忘る可らず

日 房

氣質は陽氣に事は兎角立派あるを好む財産を得と雖も無益な事に義理立し損失大ある性なり

日 星

性質深き思慮さきも物を辨別するの材あり性は人に負けぬ質也兎角多言を慎しみ人言を取用いて思考に供すべし

日 昂

性質至極正道に辨説も巧妙子孫多きも余り正直過ぎ却て惡きこと有也人との契約は堅く覆行すべく最初の決心は中絶なく飽迄一貫すべし然し此性の誤りたる者吝嗇家多しとす

月 畢

性質質着かる生にて道徳を尙ひ道理を解する人なれば世人の先導者なるに勉め精神を活潑に他人の爲泰て其業を採るべし

月 必  
性質智慧思慮あり他人の教を受け義侠心に富む有益の人なるも交際上充分人物選はされば危き事屢々と知へし

月 張  
性質言語緻密人に信用を博し又忍耐の氣象をも備へ目的も大なる志操も立つ人なり

月 危  
性質風儀質直にして懸引萬事巧妙他人に後るゝを嫌ふ質とす但し酒を好むの癖あらば特に慎しむへし

火 室  
性質父母に孝順、妻子に親く、家内を修め、家業至極精勤なり隨分人後に着かざる氣象あり宜しき質とす

火 翼

性質外装は荒々敷見ゆるも内心は穩當にて言葉も靜なる方施を好み手藝に巧みざる質なれば大事を起さは損あり商業は初め小々交際上人に耐忍すべし

火 替

性質良好にして他人の爲に奔走し時日を惜まぬ風あり心は極上人あり謹慎自重の心を

以て他に對せば失敗なしと知べし

火 尾

性質溫和萬事考へ深く義侠の心と慈善の質あり言語は能辨の人多し兎角善に強くは悪にもで飽迄自説を取り隨はざるは損多しと知べし

水 箕

性質言語巧妙にして理を解くを好む兎角敗を嫌ふ氣ありて活潑なれば志操は他迄も一貫するを要す去と多淫を慎しむべし

水 軫

性質至極器用にして大なる事も細密の事に迄着目する人なり唯肝氣を起すの癖有と知べし

水 參

性質材力あり智策もあり然るに他人の言葉は善惡に係はず用ひざる僻あり自説を愛するは惡し人の説にも妙案ありと知べし

水 壁

性質智材あり思慮深く何事にも人後に付を好まぬ良き質も時に我慢と變ずる也兎角心内を明さぬ故病氣を起す事あり智慧を配りて物事を行ふべし

木 奎

性質社會公共の事業上美を聞かば直に資本を以てし邪曲かく天稟好良福徳ある者多し  
物事を輕忽にせぬ謹みある質なり

木 角

性質威儀ある活氣ありて商工業に適當し成効空しからず機敏なる實業家也

木 斗

性質技藝巧みに聰明あれば交際も上手也國を遊歴する質あり富者多きも唯輕忽を慎む  
べし

木 井

性質義侠の心あり苟も人の頼み飽返も世話を爲其内心善良にして幸運人也然し眷屬を  
愛し家内の不和を起さるることに注意すへし

金 鬼

性質親切あり堅氣あり言葉も巧みなり直言して装はぬ宜しき人也慎むへきは嚴格ある  
道理の言葉は上に得ありて下に損あり嫌はれざる注意すへし

金 箕

性質技能多く諸事慎重に勤め遜讓の心ありて人に愛せらるる内心澹泊大事を企つる事に

勤むへし

金 亢

性質財産を起し大勢の人を支配して家を起すの性あり活氣あつて物事に機敏なり商業  
家には殊に適當なり

土 胃

性質剛強なる氣象あつて海外に航し冒險事業を企つる性あり事は熱心になす人也然し  
此精神を失はば無機力の人と成るに至らん

土 柳

性質交際上手に信儀ある人也欺きと知らば何處迄も非を鳴らす質あり人の性は詐謀不  
信に陥り安きものと記臆せざる可らず

土 女

性質精神不抜にして物に動せず信義を重んじ人を敬す惡き者は敬して遠ざけ物事を察  
する先見の明あり又人心の善惡をも能察する才子なり

土 岳

性質活潑と云に非ざるも好良なり大徳は愚に似たる風にて物事に猶豫あれば決斷を第  
一とすべし

明治四十三年一月五日印刷  
明治四十三年一月八日發行

定價金壹圓

著作  
所有

著者	東京市小石川區西九町壹番地 岡崎儀八郎
發行者	東京市淺草區茅町二丁目五番地 松成伊三郎
發行所	東京市淺草區須原屋書店 松成堂
印刷者	東京市淺草區黑船町二十八番地 加藤源吉
印刷所	東京市淺草區黑船町二十八番地 並木活版所

東京市  
所擗賣

大倉書店  
東海堂書店  
至誠堂書店  
東京堂書店

林平書店  
北隆館書店  
文林堂書店  
大洋堂書店

大阪  
同古屋

岡田文祥堂  
矢部福音社  
川瀨代助  
星野松次郎

# 天源術

洵宮術秘訣  
秘密奧傳  
天源曆  
天文運機術

# 四大秘書摘

特製全四冊帙入白絹糸日本綴角  
定價 金參圓五拾錢  
普通製全四冊袋入日本綴富士形  
定價 金貳圓九拾錢

此ノ四書ヲ以テ完結シ天源術本義トス、右送本料特製普通製共内地十八錢清韓樺太臺灣は三十五錢、代金引替ハ何レモ五錢増ノ事

空海大上人秘書佐々木高明釋述

# 天文運機術

一名天地人三道ノ極意

四號文字總平かな附  
半紙形日本綴  
定價 金壹圓  
送料 八錢

運機術は大同元年弘法大師が唐土の憲宗皇帝より賜りたる天體人義の大秘書也天下第一流の人士間に秘用せられ大は國家經營の資料となり小は處世成功の階梯とし深く尊重せられ斯術の極意究めたる者は古昔に在ては大師を始め親鸞上人天海上人聖臣秀吉徳川家康の如く功名赫赫々として其終りを全ふし現今に於ては大富豪家大政治家大學者又著名なる將軍は皆斯術に因て成功せざるはなき也故に前刊の天源術と併讀せば何人と雖も斯術の奧義に達する事を得べし

佐々木高明著

# 天源曆

半紙形日本綴  
定價 金三拾錢  
送料 四錢

本書は天源洵宮三輪組織の加年曆にして何人と雖も容易に理解し得る古今未發の秘書なり

祖聖與野南ト先生遺傳 天源洵宮術研究會編  
洵祖橫山丸三翁

# 天源洵宮術秘訣

菊版和製紙數百八十餘頁  
總平かな附美本全一冊  
定價 金八十錢 送料 八錢

内容、丸三翁一代の道歌、洵祖橫山丸三翁神像之贊、洵話、洵祖傳記、洵祖略年譜、十二神相及配合之傳、十二支道歌、二十八宿を練る法、刺栗の話、道心の條、修道之條、禍福の條、安心の條、貧富の條、我慢の條、信心の條、生死の條、長壽の條、簡易長壽法、自戒十二ヶ條、本書は天源洵宮學を修むる者の必ず知らざるべからざる丸三翁か秘書にして未だ曾て世に出ざるも又十二神相配合辨は神意を漏せるものにて轉禍爲福の基也其他道心の條以下の洵話の如きは斯學の妙訣を極たるものにて悉く平易靈妙の説明なれば斯道研究者には無二の恩師なり

# 各新聞の批評

(二六新聞) 近來洵宮術を信する者多しと雖も此術は如何なる人の創見に出でたるものなるか、また此術の根據とする眞理は如何なるものなるかは知る人少し本書は洵祖橫山丸三翁の傳記及び此術の眞理秘訣等を明細に説述したるものなれば斯道研究者には有益の書なり  
(中外商業) 近來斯學を鼓吹する者多きが爲め多年秘し置きたる洵祖橫山丸三翁の洵宮學(中略)の妙訣を解説したるもの斯道研究者は一讀せらるゝも可なり  
(毎日) 天源洵宮術秘訣(同研究所編)天源洵宮の學は洵祖橫山丸三の遺した學である。天文と地



理を基礎として人事の歸趨を下すといふのであるが解釋の仕様に依つては一部の眞理がある。通俗心理といふ程のものに此學が發達すれば單なる迷信の獎勵とならずに濟むであらう。

**(日々新聞)** 一種の骨相學、心理哲學とも云ふべき所謂天源洵宮術を詳説せるものなり

**(東洋新聞)** 本書は曩きに大好評を博し世間に大に歡迎せられ既に其四版を刊行するに至れる

天源術秘密奧傳の一部なりと云ふ洵宮術を専修せんとする者の必ず繙かざる可からざる珍書なり

**(毎日電報)** 洵宮術の秘訣を詳細に説明し斯道研究家の指南車となるべきもの、志あるものは就て一讀すべし

**(毎夕新聞)** 本書は祖聖與野南卜洵祖橫山丸三翁の遺傳にして天源洵宮研究會の編するもの世の同學を修めんとする者は是非座右に備へざるべからざる珍書にして橫山翁の傳記洵話年譜等は世人の知らんと欲するもの又た十二神相配合辨は神意を洩らせるものにして轉禍爲福の基也其他道心の條以下の斯學の妙訣と蘊奥を極めたるものにて悉く靈妙なる説明なれば斯道研究者には無二の師なり

**(やまと)** 編纂者は研究會云々とあれど實は曩に天源術秘密奧傳を著し江湖の喝采を博したる面目庵佐々木高明氏なること明かに本書の序文に於て知らる本書の特長とする所は洵宮學の祖橫山丸三翁の傳記、洵話、年譜等の未だ世に現はれざるものを網羅したると同時に天源洵宮術の活用に就て何人にも解り易きやう一層詳細の説明を試みたるに在り曩日の天源術秘密奧傳と併せ讀まゞ大に發明する所あるべし

天海上人遺傳 佐々木高明述

德川家康公秘藏 天源術秘密奧傳

一名洵宮術研究極意

舶來紙和製美本全一冊菊版  
形平かな付紙數百七十餘頁  
定價金八十錢 外に送本料八錢

内容初傳中傳奧傳皆秘密開放

天源術は明治の今日迄秘中の秘として公刊せられざりしが古今の有名なる政治家富豪家は勿論其他著名の成功者は皆斯術の蘊秘を極め以て自家の寶庫となしたる也今や戦後三年の後に於ける日本は將に二十年を期して尙著しき膨脹を來たさんとす則ち國民たる者は豫め心身を修養し以て大に企圖する所なかる可からず天源術は實に這般の必要に應じて生れたる者苟くも國家社會に立ち貢獻せんと欲するの士は他の元費を節して必ず一本を購はざる可らず

本書ニ對スル各新聞ノ批評ニ

**(朝野新聞)** (前略)該書は斯術の大家たる佐々木高明氏の著にして發行以來非常の好評を博し殆ど上下の社會を通じて購讀せざる者なき程の勢ひにて今や其第四版を出版するに至れり以て該書が如何に各方面の人々に歡迎せらるゝかを知るに足るべし

**(毎日電報)** 訂正増補第四版として出づる海宮術を説明したり蓋し本書は徳川家康をして覇業を爲さしめたる天海僧正の遺傳にして著者の家に秘藏したるものなりといふ

**(日本新聞)** (前略) 目下各地ニ流行シツ、アリテ之ガ研究ニ從事セルモノモ少ナカラズ然ルニ從事ノ海宮大家ト稱スル連中ハ之ヲ秘傳或ハ家傳トシテ容易ニ他ニ公開セザルヲ例トセシガ今本書ノ發行アリタルハ該術ノ研究者ノ福音ナリト云フベシ

**(時事新報)** 本術ハ天海大僧正ノ遺傳ニシテ徳川家康ヲシテ三百年ノ覇業ヲ就サシメタリト稱スルモノナリ初中奥ノ三傳ニ分カチ初傳ニハ天源術ノ入門ヲ記シ中傳ハ組織法判定法及ビ十二相貌ノ傳ヲ記シ併セテ其應用ヲ説キ奥傳ハ初中傳ノ秘ヲ發シ活用自在ニ詳説シタルモノナリ

**(やまこ新聞)** 目下我東京市ヲ初メ各地ニ大流行ヲ極メツ、アル天源術ハ又ノ名ヲ海宮術ト云フ徳川家康ノ參謀天海大僧正ノ創始ニカ、リ家康亦コレニ依ツテ得ル所少ナカラザリシトイフ(中略)タゞ從來ノ所謂海宮術大家ハ多ク是レヲ秘傳若シクハ家傳トシテ他ニ公開セズ隨テ其研究者ハ必ズ師ニ就キ少キモ壹年多キハ數年ノ研究ヲ重ネザルヲ得ザルノ不便有リシガ今本書ニ依ツテ其不便ヲ救済セラル、ニ至リタルハ自他ノ幸慶トイハザルベカラズ(中略)世道人心ヲ裨益スルニ足ルモノアリ是レヲ一種ノ心理哲學トシテ見ルモ排斥スベキモノニ非ザルガ如シ兎モ角海宮術研究者ニ取リテハ極メテ

屈強ノ一書也

**(二六新聞)** (前略) 天源術ハ天海大僧正ノ遺傳ニシテ徳川三百年來秘シテ發セザリシガ(中略)斯道ニ志アル士ハ就テ見ラルベシ

**(毎夕新聞)** 天海大僧正ノ遺傳ニシテ家康公秘藏ノ書ナリト(中略)人生ノ運命ヲ豫言シタルモノナレド從來有來リタル杜撰ナル判定法ト異リ其根底モ確タル所ニ據リ且多種多様各方面ニ涉リテ詳細ニ縷述シタルハ近來稀レニ見ル所ノモノニシテ讀者ヲシテ偉人天海大僧正ノ遺傳タルヲ首肯セシムベシ殊ニ千支ノ起源解説胎月ノ千支ヲ繰ル法天道地理七曜二十八宿ノ解律呂ノ詳解天源五辨法等ハ中々ニ振ツタモノナリ兎ニ角近來ノ珍書タルヲ失ハズ

**(東洋新聞)** 一名海宮術研究極意ト題シ天海上人遺傳ニシテ徳川家康公ノ秘密ニ係ルト云フ長々シイ肩書ノ付イタ讀ンテ字ノ如ク處世人道ノ一般ヲ説キ進ンテ(中略)相貌學研究者ノ好辭書タルベキ任務ヲ負フテ居ルノデ有ル而モ其中ニ平易靈理ナル説明ガアル爲メ一般人士ノ參考書ニモ好適書トシテ大ニ數多江湖諸彦ニ歡迎サレツ、アルト云フハ時代人ノ精神的慾望ハ蓋シ此ノ書ニ依テ満足サレルデアラウ(下略)

**(中央新聞)** 天源術ハ上野寛永寺ノ開基タル慈眼大師天海大僧正ノ創見ニシテ徳川家康公ハ是レ

ニ依ツテ施政上得ル所妙カラザリシト傳ヘ云フ現代ニ在ツテモ著名ナル政客富豪縉紳等ノ斯術ヲ研究セザル者無ク此頃一全國ニ瀾臺セル洵宮術ハ即チ其一部ニシテ修身齊家ノ方法トシテ頗ル趣味アリ著者佐々木高明ハ斯術ヲ心理哲學ノ上ヨリ解釋シ且精神修養ノ忽諾ニ附スヘカラサルヲ歎ジ心血ヲ瀝キテ著述シタルモノナリト云ヘハ斯道研究者ニ取リテハ無二ノ良師友タルベシ(下略)

(中外新報) (前略) 天海大僧正ノ遺傳ニシテ徳川三百年來秘シテ發セサリシカ今回(中略)發兌セラル斯道ニ志アルノ士ハ就テ見ラルベシ

(都新聞) 天海大僧正遺傳徳川家庶公秘藏ノ文句アリ其來歴ヲ知ルニ足ルベシ中ニハ當世風ノ骨相觀ノ如キモノヲモ含ム

(東洋哲學) 一名洵宮術研究極意といふ、洵宮は民間に行はるゝ一種の信仰也之を善用すれば其功少なからざれども之を悪用すれば御幣幣の迷信家となりて頑迷實に度し難し從來此等俗信仰の書籍は秘傳口傳など、唱へ筆寫したるものなれば其道に入らざれば容易に得難かりしが今本書公刊せられたれば之を研究せんとする人に便宜を與ふること少しとせず

文珠菩薩原著 安部晴明遺傳  
日蓮上人秘書 岡崎立命編述

# 宿一十八宿秘密奧儀傳 全一册

半紙形日本綴平かな附 定價金壹圓 送本料八錢

從來宿曜二十八宿ハ一斑ニ淺薄ナル占察ニノミ應用セラレ眞ニ其應用ヲ發揮シテ水火劍病ノ四難ヲ避ケ安心世ニ處スルノ迄ニ至ラサルヲ遺憾トス本書ハ髓頭ニ口傳極秘ノ奧儀ヲ瀾シ活用自在ナラシム故ニ本書ニ依リテ各人各個良ク宿曜運行變動ニ依リ以上ノ四難ヲ避ケテ發達シ得ベキハ本傳ヲ秘書セン日蓮上人ニ依ツテ見ルモ明カナリ猶内容行文平易何人ニモ解シ易ク又是レテ日割鑑ニ使用セハ實ニ其人々ニツイテ時々刻々ノ善惡迄モ確知スル事ヲ得

## 小倉百人首歌留多

第壹號金 三圓也 中形 札桐箱 入第六號金七拾錢也  
第貳號金 壹圓貳拾錢也 大形 札桐張ボール箱入第七號金四拾五錢也  
第參號金 壹圓也 細工 箱入 中形 札桐張ボール箱入第八號金四拾錢也  
第肆號金 九拾錢也 中形 札桐張ボール箱入第九號 金三十錢也  
中形 札美術 第五號金 八拾錢也 源氏五十四帖  
寄木 細工

東京高等工業學校校長手島精一先生校閱  
片桐丑太郎先生著圖

# 和洋規矩術秘傳

本書ハ日本及ヒ西洋建築ノ規矩術秘傳ニシテ未ダ世ニ發表セサリシ秘傳ヲ各官廳會社商店等和風西洋風又ハ折中ノ建築ニ實地應用セシモノヲ圖說シ一日瞭然タルヲ左ニ其一二ヲ摘記セバ圓柱、楹、配景畫法捻上階段、丸小屋隅木、反物并ニ角割、四方轉、額留、藥研留榫杏軒伏扇垂木新扇垂木、隅須濱瓦、鬼板瓦、獅口、下棟、起入母屋起破風、千鳥破風其他、總テ秘傳トセシ秘密ヲ記シ猶著者カ多年實驗苦心セシ自ラノ參考圖等併セテ四十有九圖何レモ從來複雜ナル規矩ノ割出シモ本書ノ秘傳ニ依ツテ簡單明瞭ニ了解シ其儘實地ニ應用シ得故ニ初學ハ勿論工學工師建築業者ノ缺クノ可ラサル良書ナリ

美術木版彫刻美濃本形大和綴  
最上日本紙印刷  
圖面五拾餘圖  
定價金壹圓貳拾錢  
送本料金八錢

- 關羽美濃川真類共編 **皇位繼承編** 全六冊 定價 金四圓也
- 關羽美濃川真類共編 **纂輯御系圖** 全三冊 定價 金壹圓五拾錢也
- 長內文次郎編 **天理奇數術** 全一冊 定價 金七拾五錢也
- 由井正徳著 **古文孝經大全** 全一冊 定價 金拾錢也
- 藤田治明著 **結構七十二例** 全二冊 定價 金拾五錢也
- 鹽谷安著 **東京文證大全** 全三冊 定價 金壹圓五拾錢也
- 青木輔清著 **美術九重編造花獨案内** 全三冊 定價 金壹圓也
- 下田歌子序市川獨步著 **日露戰役錄** 全二冊 定價 金壹圓也
- 大山元帥題字高橋壯昂著 **日本新地圖** 定價 金廿五錢
- 東京府教育研究會校閱

- 辰巳小次郎著 **新字典** 全二冊 定價 金壹圓五拾錢也
- 辰巳小次郎著 **スヘルリング** 全一冊 定價 金拾錢也
- 荒船市五郎先生著 **五重塔詳細姿圖** 全一冊 定價 金壹圓也
- 中學研究會編纂 **中學豫備算術** 全一冊 定價 金四拾錢也
- 荒船市五郎製圖 **西洋合掌組立詳細圖** 一折 定價 金廿錢
- 小屋合掌組立詳細圖 **習字と用文** 全一冊 定價 金四拾錢也
- 深澤滋厚著 **東京管内新地圖** 全二冊 定價 金廿五錢
- 東京府教育研究會校閱 **萬國新地圖** 全二冊 定價 金廿五錢
- 東京府教育研究會校閱 **唱歌集** 二編 各定價 金八錢
- 東京府教育研究會校閱

長坂頼幸編纂  
三歌 少年ノ心 全二冊 定價金八錢

東京府教育研究會編纂  
前大學講師山岡成章著

中學毛筆畫 全六冊 定價金一圓〇四錢

東京府教育研究會編纂  
前大學講師山岡成章著

新定小學毛筆畫 高等科全八冊 定價金六十八錢

高崎正風 共著  
紀元節歌の解 定價金七錢

物集高世著  
歌學新論 定價金十五錢

御注文ノ節ハ爲替ハ須賀町局又ハ兩國局ニ御取組願上候總テ御注文ハ御注文書着次第即時發送可仕候

野中準先生著  
日本道徳原論 全二冊 定價金三十錢

福羽美靜夫人著  
菅公一千年 全一冊 定價金十二錢

益軒貝原先生著  
女大學寶文庫 全一冊 定價金十五錢

益軒貝原先生著  
女今川 全一冊 定價金十錢

沼尻先生著  
現英名百首 全一冊 定價金十錢

清水宗徳著  
蠶業讀本 全一冊 定價金十二錢

須原屋松成堂書店

